

ヤマハ株式会社 会社案内 2022



ヤマハの歴史は1887年、創業者である山葉寅楠がリードオルガンの修理をきっかけとして、オルガン製作に成功したことに始まります。以来130年以上にわたって、楽器を中心とするさまざまな製品・サービスを提供し続け、世界中で広く親しまれるブランドとなりました。

私たちは
音・音楽を原点に培った技術と感性で
新たな感動と豊かな文化を
世界の人々とともに創りつづけます。

MESSAGE

FROM THE PRESIDENT



「世界中の人々のこころ豊かなくらし」 の実現を目指し ヤマハならではの価値を 提案し続けます

ヤマハグループは「感動を・ともに・創る」を企業理念として共有し、音・音楽を通じて世界中の人々のこころ豊かなくらしに貢献することを目指しています。ブランドプロミスには、お客様が心震わす瞬間を表現した「Make Waves」を掲げ、1887年の創業以来受け継がれてきたお客様目線のものづくりをさらに推し進め、人々の心に響く製品・サービスを届けていく決意を示しています。

当社は中長期的に目指す姿として、経営ビジョン「『なくてはならない、個性輝く企業になる』〜ブランド力を一段高め、高収益な企業へ」を定めています。お客様や社会のニーズを深く理解し、本質の追求や独自の価値提案を通して、お客様の心からのご支持をいただき、輝く個性を持った存在になるという意味を込めています。

2022年4月には3カ年の中期経営計画「Make Waves 2.0」をスタートさせ、ポストコロナの新たな社会で持続的な成長力を高める取り組みを進めています。新型コロナウイルス感染症の影響により、人々の意識や環境が大きく変化し、物質的な豊かさだけでなく、本質的な心の豊かさが求められるようになりました。また、デジタル化の加速により、人々の生活様式が変わり、音・音楽の楽しみ方やコミュニケーションのあり方も変化しています。このような世の中の変化に対応し、当社は音・音楽を原点に培った“技術×感性”を強みとしてさまざまな変革を起こし、社会の要請にお応えしてまいりたいと考えています。

私たちヤマハグループは、お客様それぞれの挑戦への勇気や情熱を応援し続ける企業でありたいと考えています。これからも皆様の期待にお応えし、末永くお付き合いいただける会社であり続けられるよう誠心誠意努力してまいりますので、何卒ご支援のほどよろしくごお願い申し上げます。

2022年9月

ヤマハ株式会社 代表執行役社長

中田卓也

新中期経営計画

(2022年4月～2025年3月)

Make Waves 2.0

新たな社会で持続的な成長力を高める

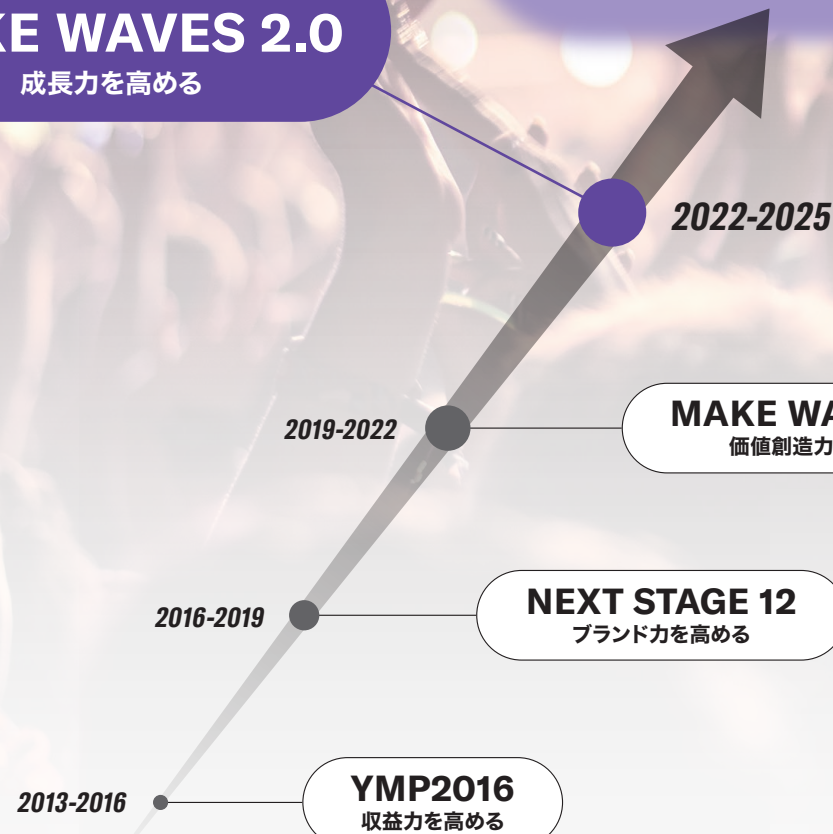
新型コロナウイルス感染症によりデジタル化やライフスタイル・価値観の多様化が加速し、サステナビリティへの意識が高まるなど、ポストコロナの「新たな社会」への移行が始まっています。「世界中の人々のこころ豊かなくらし」の実現を目指し、音・音楽を原点にした「技術×感性」で新たな価値を創造するヤマハにとっては大きな成長の機会と捉えています。2022年4月からの3年間を「新たな社会で持続的な成長力を高める」期間と位置付け、さらなる企業価値の向上に挑戦していきます。

MISSION
 〈ヤマハが目指すもの〉
世界中の人々のこころ豊かなくらし
 〈企業理念〉
感動を・ともに・創る

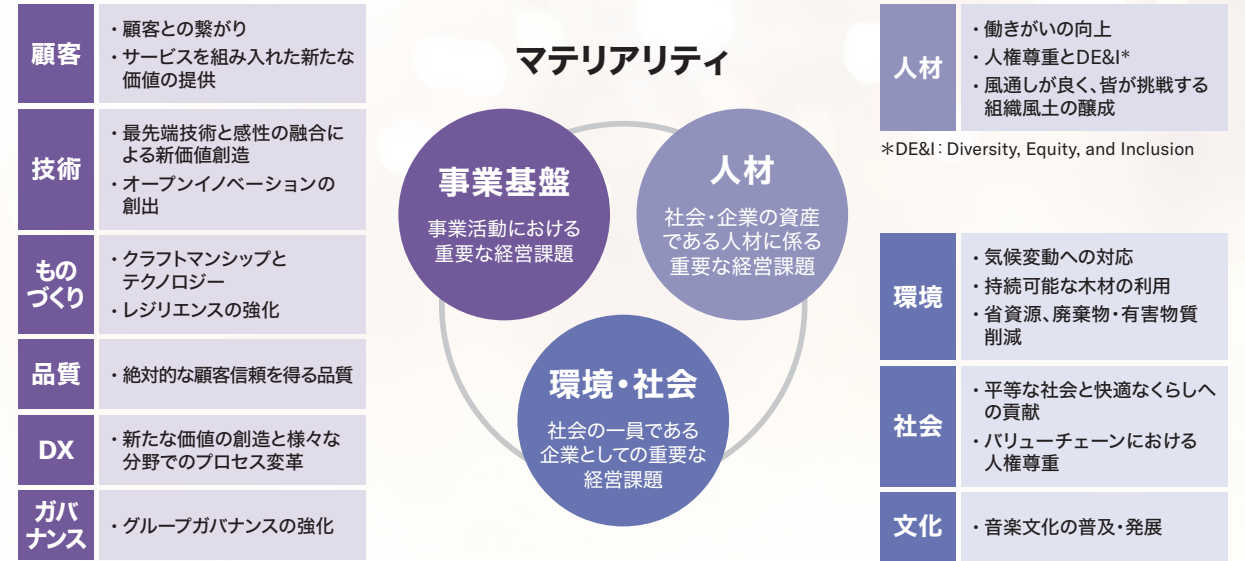
ポストコロナの新たな社会で
 持続的な成長力を高めます

新中期経営計画
MAKE WAVES 2.0
 成長力を高める

VISION
 〈経営ビジョン〉
「なくてはならない、個性輝く企業」になる
 ブランド力を一段高め、高収益な企業へ



マテリアリティ(重要課題)と中期経営計画方針



中期経営計画 基本方針 「新たな社会で持続的な成長力を高める」

- 〈方針1〉
事業基盤をより強くする
- 〈方針2〉
サステナビリティを価値の源泉に
- 〈方針3〉
ともに働く仲間の活力最大化

経営目標

非財務目標

	顧客とより繋がる指標	新価値創出指標	レジリエンス指標
事業基盤をより強くする	Yamaha Music ID* 登録数 500万ID	新コンセプト商品投入数 20モデル	生産インフラへの投資金額 350億円
サステナビリティを価値の源泉に	音楽文化普及指標 器楽教育支援対象10カ国 累計 230万人	環境負荷低減指標 持続可能性に配慮した木材利用率 75%	省エネによるCO ₂ 排出量削減 5%
	働きがい指標 従業員サーベイ 働きがい肯定的回答率 継続的向上	女性活躍推進指標 管理職女性比率 グローバル 19%	働きやすさ指標 従業員サーベイ 働きやすさ肯定的回答率 継続的向上

*Yamaha Music ID: ヤマハグループが提供する各種サービスを利用するための会員ID

財務目標

売上成長率 20%	事業利益率 14%	ROE 10%以上	ROIC 10%以上
------------------	------------------	------------------	-------------------

想定為替レート: USD 115円/EUR 130円

ヤマハの事業概要

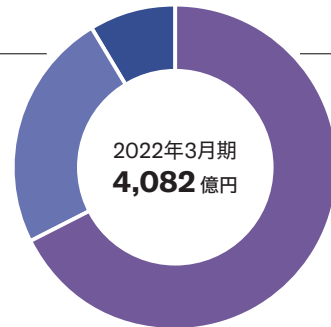
「楽器事業」「音響機器事業」「部品・装置/その他の事業」の3つの領域で、グローバルに事業を展開しています。

事業別売上収益

音響機器事業

969 億円 (23.7%)

- 業務用音響機器 (ミキサー/シグナルプロセッサ/パワーアンプ/スピーカー etc.)
- 音楽制作機器・ソフトウェア (音楽制作ソフトウェア/オーディオインターフェース/コントローラー etc.)
- ホームオーディオ機器 (ホームシアターシステム/AVアンプ/スピーカーシステム/システムコンポ etc.)
- 音声コミュニケーション機器
- ネットワーク機器 ■ 防音室



部品・装置事業ほか

351 億円 (8.6%)

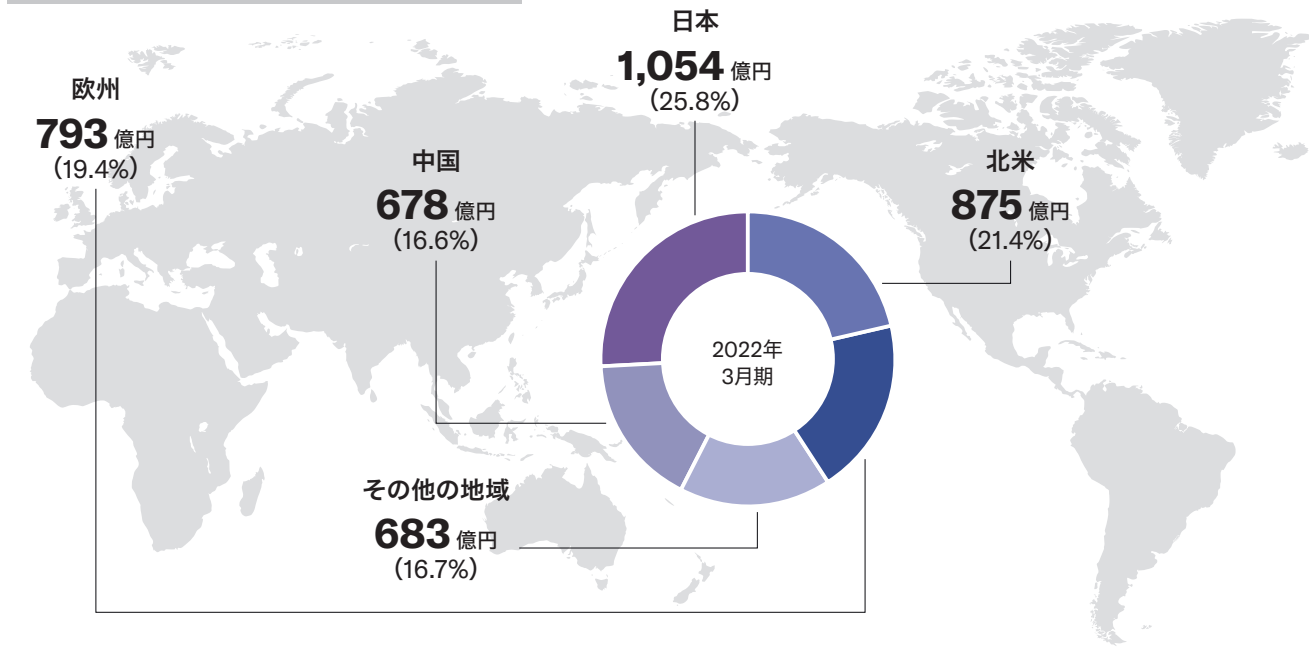
- 部品・装置事業 (電子デバイス/自動車用内装部品/FA機器)
- ゴルフ用品事業 ■ リゾート事業

楽器事業

2,762 億円 (67.7%)

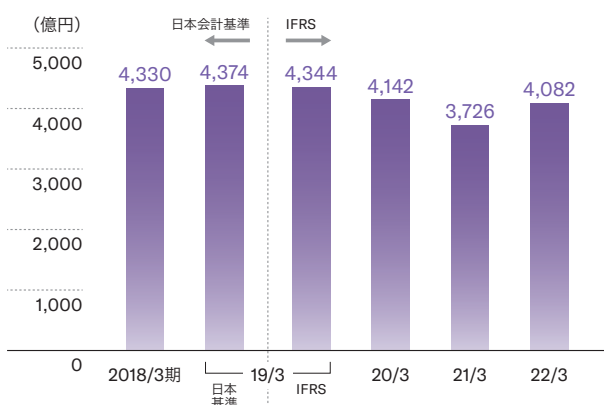
- 鍵盤楽器 (ピアノ/電子ピアノ/電子オルガン(エレクトーン®)/ポータブルキーボード/シンセサイザー etc.)
- 管楽器 (トランペット/フルート/クラリネット/サクソフォン etc.)
- 弦楽器 (ギター/ベース/バイオリン etc.)
- 打楽器 (ドラム/ティンパニ/マリリンバ etc.)
- 教育楽器 (リコーダー/鍵盤ハーモニカ(ピアノ®) etc.)
- 音楽教室・英語教室
- メディア・エンタテインメント (楽譜・書籍出版/音楽配信/音楽プロダクション/音楽出版/レーベル事業)

地域別売上収益



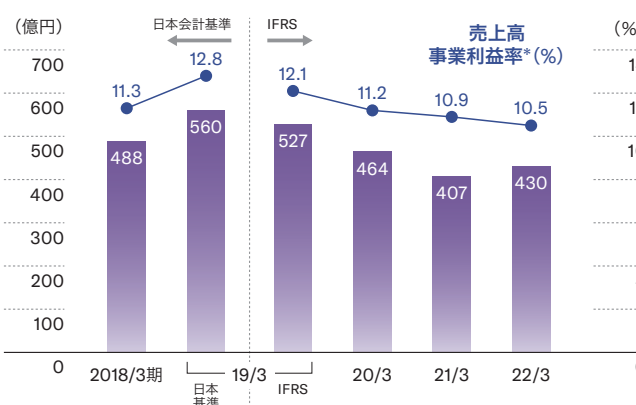
売上収益*の推移

*18/3期、19/3期(日本基準)は売上高



事業利益*の推移

*18/3期、19/3期(日本基準)は営業利益(率)



事業紹介

音・音楽を中心にした事業を通じて磨いてきた感性と多彩な技術を融合し、楽器、音響機器、部品・装置などの事業領域で、ヤマハならではの価値を生み出しています。



楽器事業

楽器の製造・販売、音楽教室等の運営、音楽・映像ソフトの制作・販売など多彩な事業を展開。初心者からプロフェッショナルまで幅広いユーザーに評価されるこれらの製品・サービスは、アーティストとの対話により進める研究開発やグローバルに展開するきめ細かな営業・サービス活動に支えられています。

鍵盤楽器

130年を超える歴史の中で培われた知見と熟練技能に裏付けられたアコースティックピアノから、先進のデジタル技術を駆使した電子楽器、そして、これらの技術の融合により生まれたハイブリッドピアノまで、豊富なラインアップを提供しています。



コンサートグランドピアノ
CFX®



ハイブリッドピアノ
AvantGrand® N3X



電子ピアノ
Clavinova® CLP-785PE



ステージキーボード
YC61

エレクトーン
STAGEA® ELS-02C
(カスタムモデル)



ベーゼンドルファー
Bösendorfer
グランドピアノ
Camellia

管楽器

50年以上にわたる管楽器製造で培った匠の技と、木材・金属を精密に加工する生産技術力を結集して、最高の音色、響きと吹奏感を生み出しています。



カスタムトランペット
Xeno® Artist Model
YTR-9335CHS



カスタムテナーサクソフォン
YTS-875EX



デジタルサクソ
YDS-150

自宅から音楽でつながる —オンライン遠隔合奏サービス SYNCROOM

独自の低遅延音声データ伝送技術により、インターネット回線を介した遠隔地間の音楽合奏を実現し、最大5拠点のユーザーがオンラインセッションを楽しめるサービスSYNCROOM。自宅などのパソコンやスマートデバイスにアプリケーションをインストールし、ユーザー登録を行うことで、誰もが気軽に遠隔セッションを楽しむことができます。コロナ禍で外出が制限される中、不自由な日常を変えた点が評価され、「2020年日経優秀製品・サービス賞」で「最優秀賞」を受賞しました。



「SYNCROOM」アプリ画面イメージ



弦楽器

アコースティック、エレクトリックに加え、ヤマハ独自のサイレント™シリーズまでカバーする弦楽器は、多くの人に演奏する楽しみを提供しています。



アコースティック
バイオリン
Artida®
YVN500S

エレクトリック
バイオリン
YEV104

アコースティックギター
FG Red Label FGX5



ラインシックス
Line 6
ギターアンプ
Catalyst 100

エレキギター
REVSTAR® RSP20

打楽器

世界中のトップアーティストとともに追求してきた音・打感、そして高い信頼を得てきた操作性・堅牢性により、プレイヤーのパフォーマンスを最大限に引き出します。



アコースティックドラム
Live Custom®
Hybrid Oak

コンサートマリンバ
YM-6100

電子ドラム
DTX®6シリーズ

教育楽器

リコーダーやピアノカなどの教育楽器の提供を通じて、子どもたちに音楽の楽しさ、演奏する喜びを伝えています。



ピアノカ®
P-32E

ソプラノリコーダー
YRS-401



音楽教室・英語教室

世界の40以上の国と地域で幼児から大人までを対象に音楽教室を展開し、楽器演奏人口の拡大と音楽文化の普及に貢献。英語教室は、歌やリズムで楽しく生きた英語が身につくヤマハならではのレッスンが人気です。



ヤマハ音楽教室



ヤマハ英語教室

メディア・エンタテインメント

楽譜出版、音楽および楽譜の配信、アーティストマネジメント、音楽出版(著作権等の管理)、レコードレーベル等、ヤマハのエンタテインメント関連の事業を幅広く展開しています。



音楽ソフト



書籍

音響機器事業

「音・音楽」をコアとして培ったデジタルとアコースティックの技術を生かし、業務用からコンシューマー向けまで多彩なソリューションを提供しています。業務用音響機器、音楽制作機器・ソフトウェア、ホームオーディオ機器、音声コミュニケーション機器、ネットワーク機器、防音室まで幅広い製品で構成されています。

業務用音響機器

オーディオネットワーク技術を生かしたヤマハの業務用音響機器。世界の著名なホール、劇場、コンサート会場などに導入されているだけでなく、店舗、会議場などの商業空間に向けた音のトータルソリューションも提案しています。



デジタルミキシングシステム RIVAGE® PMシリーズ



NEXO スピーカーシステム Plusシリーズ



ポータブルPAシステム STAGEPAS 1K mkII

スピーカーシステム VXS1MLW



ペンダントスピーカー VXHシリーズ



Live Streaming Pack AG03MK2 LSPK

Game Streaming Pack ZG01 PACK

パワー スタジオモニター HS5

音楽制作機器・ソフトウェア

ソフトウェア技術とシームレスに融合した音楽制作機器は、音楽をつくる楽しみを身近にし、より表現力豊かな音楽制作を可能にしています。

Steinberg デジタル・オーディオ・ワークステーション・ソフトウェア Cubase® Pro 12



世界中の会場でコンサートやイベントを支える業務用音響機器

ヤマハの業務用音響機器は、音質の良さやレスポンスの良い操作性、プロフェッショナルな現場で求められる信頼性、最先端のオーディオネットワーク技術などを評価され、小規模なイベントから大型のコンサートホールまで幅広い会場で採用されています。ヤマハのデジタルミキサーやプロセッサとともに、NEXOのスピーカーシステムや Steinbergのソフトウェアが導入される例も多く、ヤマハグループの総合力を生かしたソリューションを提供しています。また、会議室や店舗などの商業空間向け音響の分野においてもトータルソリューションを提案しています。



米国カリフォルニア州のイーストサイド・クリスチャン教会

主な納入事例

- 新国立劇場 (東京都)
- 東京国際フォーラム (東京都)
- JR東日本四季劇場 (東京都)
- ブルーノート東京 (東京都)
- 札幌ドーム (北海道)
- 兵庫県立芸術文化センター (兵庫県)
- ロンドン交響楽団 (英国)
- フー・ファイターズ ワールドツアー

商業空間向け音響

- ジョン・F・ケネディ国際空港 (米国)
- インターコンチネンタル ダボス (スイス)

ホームオーディオ機器

イヤホン・ヘッドホンから、サウンドバー、そして本格的なホームシアターやHiFiオーディオまで、多彩な音楽の楽しみ方を提案しています。音楽の感動を知り尽くしたヤマハが、目の前でアーティストが演奏しているかのような本物の音体験—True Sound—を届けます。



完全ワイヤレス Bluetooth® イヤホン TW-E7B



AVレシーバー RX-A8A



HiFiフラッグシップスピーカー NS-5000



完全ワイヤレス Bluetooth® イヤホン TW-E5B



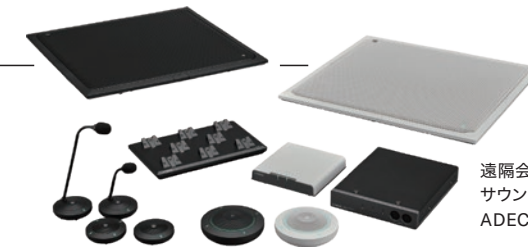
サウンドバー SR-B20A



HiFiコンポーネント パワーアンプ M-5000

音声コミュニケーション機器

遠隔会議用スピーカーフォンを中心に、自宅や企業、学校などさまざまな場所で「まるで遠くの人がそばにいるような」快適な遠隔コミュニケーションを実現します。



遠隔会議用ワンストップサウンドソリューション ADECIA



ユニファイドコミュニケーションスピーカーフォン YVC-330

ネットワーク機器

業種を問わず、中小規模の企業拠点や店舗などに広く採用されており、ルーターやスイッチ、無線LANアクセスポイント、セキュリティ機器などで安定したネットワークを提供しています。

Wi-Fi 6対応 無線LANアクセスポイント WLX222



スタンダードL3スイッチ SWX3220-16MT/SWX3220-16TMs



10ギガアクセスVPNルーター RTX1300

防音室

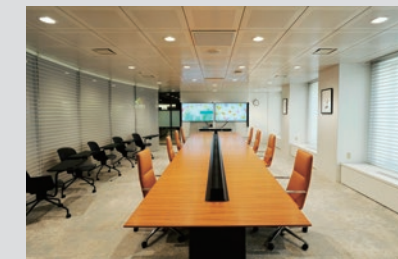
楽器の演奏はもちろん、動画配信用のプライベートスタジオや在宅勤務などにも幅広く使える防音室。室内の音が心地よく聞こえるよう調音されており、用途を問わず最適な音環境を作り出します。



アビテックス® CEFINE NS

快適で円滑なオンラインコミュニケーションを実現するために

ヤマハはビジネスコミュニケーション分野での長年の経験と、音響分野で培ってきたノウハウを生かし、音声コミュニケーション機器・ネットワーク機器を提供しています。新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけに在宅勤務や遠隔授業などが広がる中、これらの機器の需要が高まっています。今後も、企業や学校などで、また在宅勤務時に、クリアな音声配信環境・安全なアクセス環境を構築するためのソリューションを提供していきます。



遠隔会議用ワンストップサウンドソリューション ADECIAシーリングソリューションが設置されたココウ(株)品川ライブオフィス(左)と京都大学基礎物理学研究所(右)

部品・装置事業ほか

電子デバイス、自動車用内装部品、FA (Factory Automation) 機器からなる部品・装置事業と、ゴルフ用品事業およびリゾート事業でも、楽器の製造・販売を通じて蓄積した技術・ノウハウを生かして、お客様に満足いただける製品とサービスを提供しています。

部品・装置事業

電子デバイス

電子楽器や音響機器の開発で培った技術力をベースに、画像・音源・DSP・アンプなどのLSI製品をさまざまな市場に提供しています。最近では、音に関する課題を解決するソリューションとして、高音質な車載オーディオや車載ハンズフリー通話モジュールを自動車メーカーに提供するなど、事業領域を拡大しています。



アムusement機器用画像LSI YGV637

車載機器用DSP

車載オーディオ用スピーカー・アンプ

自動車用内装部品

ピアノ製造で培われた木材加工や塗装の技術と精密成形技術、デザイン力を融合し、高級車向けに内装部品を提供しています。



天然木材の魅力を生かしたウッドパネル

FA機器

ヤマハの生産技術とシステムエンジニアリングで差別化を図り、信頼性の高い機器を製造しています。



電子回路基板用導通絶縁検査装置

車載Li電池漏れ検査用ヘリウムリークテスター

ゴルフ用品事業

ヤマハが持つ技術力と契約プロゴルファーからのフィードバックを生かし、機能と感性を両立させた魅力あるゴルフクラブを開発しています。



ゴルフクラブ RMX® VD 40 アイアン

ゴルフクラブ inpres® DRIVESTAR ドライバー

リゾート事業

豊かな自然の中で非日常の空間と高品質なサービスを提供し、ヤマハにしかできない豊かな時間を創り出しています。



葛城北の丸®

葛城ゴルフ倶楽部®

デザイン Design

日本ではデザイン機能を持つ企業が少なかった1963年、ヤマハはデザイン部門を設立しました。以来、国内外のデザイナーやトップアーティストとの協働などを通じて経験と実力を蓄積し、創業100周年を迎えた1987年に、ヤマハデザイン共通のアイデンティティとして「デザイン理念」を制定しました。こうした基本的考え方をもとにお客様とのあらゆる接点をデザインし、お客様の期待を超える製品・サービスの実現を推進しています。

5つのデザイン理念

- INTEGRITY** 本質を押さえたデザイン
- INNOVATIVE** 革新的なデザイン
- AESTHETIC** 美しいデザイン
- UNOBTRUSIVE** てしゃばらないデザイン
- SOCIAL RESPONSIBILITY** 社会的責任を果たすデザイン

本質を押さえつつ革新するデザインで、新たな価値を想像

ワイヤレスヘッドホン YH-L700A

操作性や着け心地を追求し、シンプルかつ特徴的な長方形のシルエットに仕上げたワイヤレスヘッドホン。機能とデザインの両面から、没入感のある音体験を提供



カジュアル管楽器 Venova™ YVS-120 / YVS-140

まったく新しいタイプのアコースティック管楽器Venovaのアルト/テナーバージョン。機構的なサイズアップが演奏性や外観に影響を与えないように熟考されたデザイン



次世代ライブビューイング Distance Viewing

アーティストの迫力あるライブパフォーマンスを忠実に記録し、ステージ上にバーチャル再現する次世代ライブビューイングシステム



楽器工作 つくろう、ならそう!

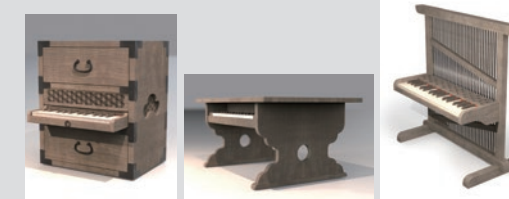
自由な外出が制限され「おうち時間」が増えた子どもたちとその家族に、楽器を「つくる」「ならす」体験を通して豊かな時間を提供したいという思いからスタートした活動



第15回キッズデザイン賞 特別賞 審査委員長特別賞

和家具様式ピアノをデザイン — 千葉大学デザインコースとの産学共同の取り組み

ヤマハ(株)デザイン研究所は、英国RCA(王立美術大学院)やイタリアのミラノ工科大学など、世界のさまざまな教育機関と産学連携プロジェクトを行ってきました。現在も東京大学先端科学技術センターや米国カリフォルニア工科大学などとの共同研究に取り組んでいます。2022年には、「日本独自のピアノの進化」をテーマに千葉大学工学部総合工学科デザインコースとの産学共同のプロジェクトを実施。「もしも江戸時代にヤマハとピアノが存在していたら、当時の生活様式の中で独自の進化を遂げたピアノはどのような姿になりえたのだろうか?」という思考実験を行い、和家具様式のピアノ「墨田の洋琴(ピアノ)」のプロトタイプ3作品を制作。「千葉大学合同卒業研究・制作展2022」の中で、架空の「洋琴屋」として展示しました。

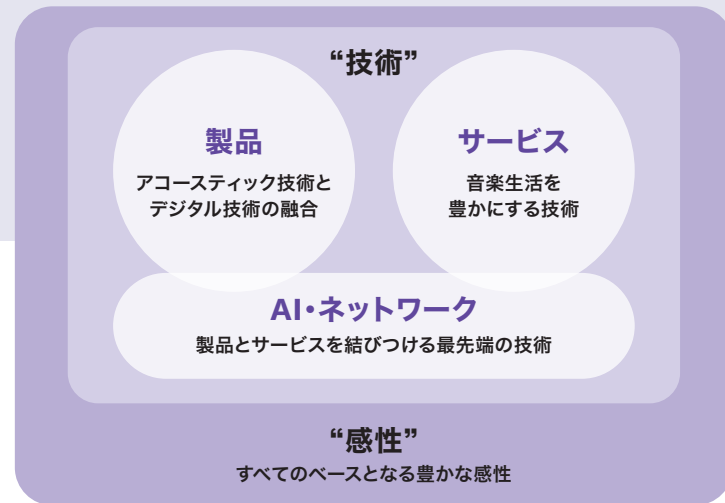


千葉大学 墨田サテライトキャンパスのほか、ヤマハ銀座店、ヤマハミュージック大阪なんば店、ヤマハミュージック名古屋店でも展示

研究開発

Research & Development

世代を超えて受け継がれた熟練技能や音づくりへの感性。「よい音」「よい音響空間」をめぐる感性に関する深い理解と知見を活用し、アコースティック技術やデジタル・エレクトロニクス技術などのさまざまな技術を組み合わせることで、他社にはないユニークな製品・サービスを提供しています。



ヤマハのコア技術

楽器領域

ヤマハは、より豊かな音を届けるために、木材・金属などの素材の加工をはじめ、鍵盤・アクションのメカニズム、音源や音響に関連する技術の研究を重ねています。

木材改質技術
A.R.E.[®] (Acoustic Resonance Enhancement)

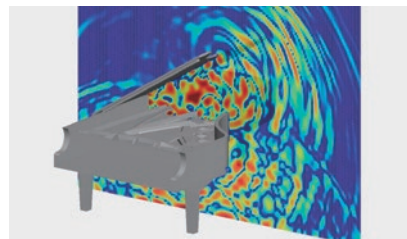
A.R.E.は短期間で木材を熟成させるヤマハ独自の木材改質技術。温度・湿度・気圧を高精度でコントロールする装置で、使い込まれた楽器のような深みのある音が出る木材へと変化させます。



A.R.E. 処理を施した木材で作られたバイオリン Artida[®] (アルティダ) YVN500S

アコースティック楽器における
振動・音響解析の研究

楽器本体の各部分がどのように振動し、その影響で楽器内部や周辺の空気がどのように振動し音が伝わるかなどの解析を、測定技術やシミュレーション技術を駆使しながら進めています。



ピアノの音を高精度な物理モデルに基づいたコンピュータ・シミュレーションで予測

音源システム
VCMオルガン・VCMロータリースピーカー

VCM技術により、トーンホイール方式の発音原理とロータリースピーカーの挙動をデジタルで忠実に再現。ピンテージオルガンの音の再現にとどまらず、個体差までも表現することが可能です。



VCMオルガン音源・VCMロータリースピーカーを搭載したステージキーボード YC88

音響機器領域

PA機器やAV機器、ネットワーク機器などにおいては、デジタル信号処理やネットワークの技術を核とした最先端のエレクトロニクス技術を駆使し、付加価値の高い製品を提供しています。

イマーシブオーディオシステム
Sound Image Control (AFC Image)

あらゆる空間でイマーシブな音環境を創り出すオブジェクトベース方式の音像制御システム。最大128オブジェクトの音を自在にコントロールし、劇場やホールなどで臨場感あふれる体験を提供します。



マルチスピーカーによるAFC Image再生システム

快適な遠隔コミュニケーションを実現する
SoundCap[®] テクノロジー

「収音範囲制限機能」「マイク自動ミュート」「スピーカー音量自動調整」から成るヤマハの新しい音声信号処理技術。周囲の環境音が多く存在するオープンスペースでも、雑音を抑制することで快適な会話を可能にします。



オフィスのあらゆる場所で快適な遠隔会話体験を実現するスピーカーフォン YVC-330

全帯域で統一された音色を実現
HiFiスピーカー振動板

スピーカーの次世代技術を結集。中でも聴き心地の良さと厳密な音の再現にこだわり、ベリリウムに匹敵する音速を実現する新開発の振動板素材を全ユニットに採用することで、全帯域にわたって音色を統一しました。



新概念の技術と素材を採用したNS-5000

コア技術の融合

ヤマハは、世界最大の総合楽器メーカーとして幅広い領域の製品を手掛ける中で、世界中の人々が良い音、良い音楽を楽しめるよう、最高の技術を追求してきました。そこから生み出された技術を有機的に結合しながら、新たな価値を創造し、お客様に驚きと感動をお届けすることを目指しています。



デジタルサクソ YDS-150 — いつでもどこでも、思いのままにサクソフォン演奏

アコースティックとデジタルの融合によって生み出された「ベル一体型アコースティック音響システム」。マウスピースから吹き込んだ息をブレスセンサーが検出、デジタル音源システムがスピーカーを駆動し、音と振動がイェローブラス製ベルにまで伝わります。まるでアコースティック楽器を演奏しているような吹奏感と、自然で美しい音の響きを実現しました。

価値創造の取り組み

プロジェクトセカイ・ピアノ

(株)セガ、(株)Colorful Palette、クリプトン・フューチャー・メディア(株)の協力により、iOS/Android向けリズム&アドベンチャー「プロジェクトセカイカラフルステージ! feat. 初音ミク」に登場するキャラクターとの演奏を楽しめるピアノを製作。特定の楽曲を弾くと、ヤマハの「人工知能(AI)合奏技術」により、初音ミクをはじめとした同ゲームに登場するキャラクターが歌唱します。



2021年3月以降、ヤマハの楽器店などに設置された「プロジェクトセカイ・ピアノ」

© SEGA / © CP / © CFM

車載用立体音響技術

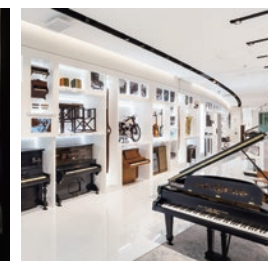
独自の信号処理技術により、車室内で立体音響に対応した映像・楽曲コンテンツに没入できる技術です。音の反射や共鳴が顕著で複雑な形状をした車室内でも、制作者の狙いを精度高く再現し、全てのシートで立体音響の圧倒的な没入感を体感することができます。また、安全面に配慮し、さまざまなセンサーが発する情報提示音を立体的な表現で再生するシステムHMI (Human Machine Interface) システムの開発も進めています。



全シートで立体音響の没入感を楽しむことができるオーディオシステム

新たなイノベーションを創出する拠点「イノベーションセンター」

ヤマハのコア技術にさらに磨きをかけ、新たなイノベーションを創出するため、最新鋭の研究・実験設備を備えた研究開発拠点「イノベーションセンター」を本社敷地内に設置しています。研究開発部門の技術者約2,500人を集結し、事業領域を超えた製品・技術の開発を加速させます。

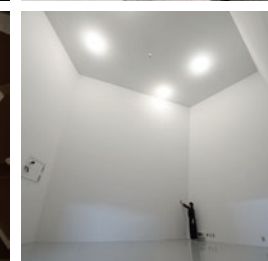
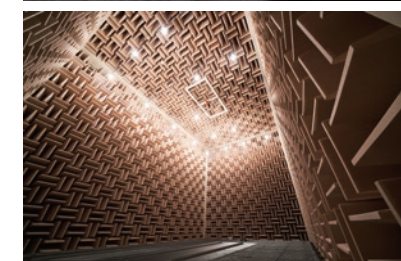


企業ミュージアム 「イノベーションロード」

研究・開発棟1階にある、ヤマハの製品開発の歴史を展示した企業ミュージアム。「ヤマハらしさ」が体現された製品・サービスが音や映像などとともに展示され、過去から現在、そして未来へと続く挑戦の軌跡を、「見て」「聴いて」「触れて」体感できます。

実験室

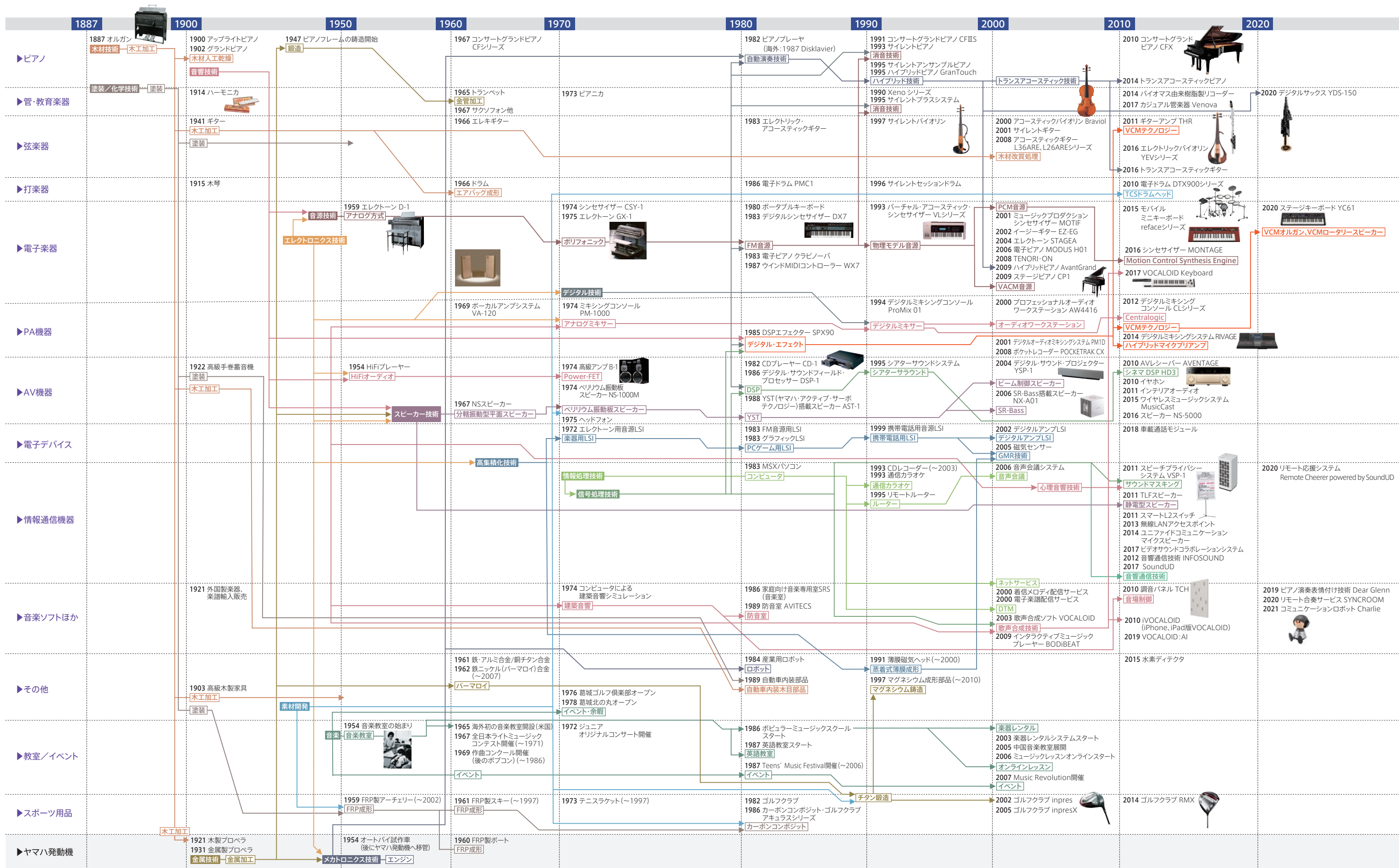
試作品の技術評価および官能評価を行うための最新鋭の設備を整備。各種スタジオ、楽器の試奏室、無響室、残響室、振動実験室などを設置しています。



(左) 無響室 壁面に吸音体を設け、音の反響を極限まで抑えた測定室
(右) 残響室 建築内装材の吸音率や音源の音響パワーレベル測定に使用

製品と技術の歴史

Product and Technology Timeline



サステナビリティ Sustainability

ヤマハグループは、世界中の人々のこころ豊かなくらしの実現を目指し、音楽文化の普及・発展への貢献や、地球規模の環境問題や社会課題への対応を通じて、持続可能な社会構築のための活動 ―サステナビリティ活動― に取り組んでいます。

ヤマハグループサステナビリティ方針

ヤマハグループは、長い歴史の中で、自然、社会、文化との繋がりを意識しながら、人々の「こころ豊かなくらし」を願い、さまざまな取り組みを行ってきました。木材をはじめとする自然素材を多く用い、匠の技により丁寧に仕上げられた製品は、世代を超えて引き継がれ、さらには、リニューアールされることで新たな命を与えられ、多くの人々に親しまれてきました。また、単に製品を販売するだけでなく、世界中のさまざまな国と地域で、自らの事業として、音楽文化の普及・発展に貢献してきました。それは、子どもたちの器楽教育普及、音楽教室展開からトップアーティストのサポートに至るまで、実に幅広い活動です。こうした想いや取り組みは社会のサステナビリティに通じるものであり、130年を超える歴史の中で綿々と引き継がれ「ヤマハラしさ」を形造ってきました。

ヤマハグループサステナビリティ方針

ヤマハグループは、世界中の全ての人々が心豊かに暮らす社会を目指します。その実現のために、企業理念である「ヤマハフィロソフィー」を心のよりどころに、かけがえのない地球環境を守り、平等な社会と快適なくらし、心潤す音楽文化の発展に貢献するとともに、人権尊重はもとより、多様な人材が互いに認め合い活躍できる環境を整えることで、未来に向かって新たな感動と豊かな文化を世界の人々とともに創りつづけます。この考えに基づき、持続可能な社会の実現に向けた取り組みによる社会価値の創造を通じ、自らの中長期的な企業価値を高める為、マテリアリティを特定し、積極的にサステナビリティ活動を推進します。

ヤマハWebサイト「ヤマハグループサステナビリティ方針」<https://www.yamaha.com/ja/csr/policy/>



環境に配慮した事業活動の展開

「ヤマハグループ環境方針」に基づき、事業活動における環境負荷の低減、環境に配慮した製品・サービスの提供、環境貢献活動を進めています。ISO14001認証取得など環境マネジメント体制を整備し、温室効果ガス排出削減や環境汚染防止、木材資源の保全、エコプロダクツ推進などにグループ一体となって取り組んでいます。

温室効果ガス排出削減の取り組み

ヤマハグループは「気候変動への対応」をマテリアリティとして特定し、経営重点テーマとして位置づけています。サプライチェーンを含めたグループ全体のCO2削減を横断的に管理するため、温室効果ガスの総排出量の削減に関して2031年3月期までの中期目標（SBTイニシアティブ1.5°C水準の達成など）、2050年までの長期目標（カーボンニュートラルの達成）をそれぞれ設定しています。国際的な環境非営利団体CDPより、気候変動対策の取り組みとその情報開示に関して世界的に優秀な企業として評価され、「2021年度気候変動Aリスト企業」に選定されています。



「2021年度気候変動Aリスト企業」に初めて選定

持続可能な木材資源利用に向けた取り組み

楽器製造を中心に多様多様な木材を使用するヤマハグループは、木材資源の持続的な活用に向けた取り組みを進めています。2015年より、木管楽器に使われる希少木材「アフリカン・ブラックウッド」の調査を原産地のタンザニア連合共和国で開始しました。2016年からは国際協力機構（JICA）の民間連携事業として、現地NGOと連携した住民参加型森林保全による安定調達に向けたビジネスモデルを構築。対象地域で立ち上げた定期的な植栽により、5年間で累計約12,000本（面積約6.5ha）の苗木を植栽しました。良質材の育成技術や材料技術の研究開発、早生材の導入試験など、楽器素材としての安定調達、および持続的な社会発展につなげるモデルの改善・実装に向けた活動を展開しています。



2018年1月にタンザニアで実施した苗木の植え付け

音楽文化の発展と豊かな社会づくりへの貢献

ヤマハグループは、音・音楽で培った技術と感性を生かし、より多くの人々が音楽を楽しむことのできる機会づくりや活動支援、音楽、スポーツなどを通じたコミュニティー活性化への取り組みなど、さまざまな活動を実施しています。

楽器を使った活動でこころの豊かさを育む「スクールプロジェクト」

音楽や楽器演奏を通じて、子どもの社会性や人間性を育む「スクールプロジェクト」を新興国で展開しています。現地政府と連携し、楽器に触れる機会に恵まれなかった子どもたちに演奏の楽しさを知ってもらうと同時に、教員養成や教材の提供により、誰もが継続的に質の高い音楽教育を受けられる環境づくりを支援しています。2022年3月末までに、インドネシア、マレーシア、ベトナム、インド、ブラジル、アラブ首長国連邦、エジプトで約129万人の子どもたちが、公教育の中で学習機会を享受できる環境整備を支援。2022年7月にはエジプトでの「初等教育への日本型音楽教育導入事業」とブラジルでの「初等教育への日本型器楽教育導入事業」が、文部科学省による「令和4年度EDU-Portニッポン応援プロジェクト」に採択され、さらに活動を拡大していきます。



エジプトの公立小学校でリコーダーを用いた授業（提供：エジプト・日本学校）

青少年育成のためのオーケストラ・バンド活動支援

犯罪や貧困、格差が深刻な社会問題となっている中南米では、子どもたちが犯罪・非行・暴力に走ることなく健全な精神を育めるよう、国の政策で無償の音楽教育活動が進められ、青少年育成を目的としたオーケストラやバンドが結成されています。ヤマハは「AMIGO Project」を通じて支援活動を行い、子どもたちが自分の力で楽器をメンテナンスできるようにワークショップを開催するほか、楽器の修理に対応できる技術者の育成を推進するなど、より良い環境で子どもたちが演奏を続けられるようにサポートしています。コロナ下でもオンライン方式に切り替えて活動を継続しており、現在、メキシコ、エルサルバドル、コスタリカ、パナマ、ドミニカ共和国、コロンビア、ペルー、ブラジルの8カ国で展開しています。



ヤマハミュージック・ラテンアメリカが支援する吹奏楽団

「だれでもピアノ」で多くの人にピアノを弾く楽しさを提供

東京藝術大学COI拠点*とヤマハ(株)は、指一本でメロディを弾くと、伴奏とベダルが自動で追従する自動伴奏追従機能を活用した「だれでもピアノ」を2015年に共同開発しました。障がいのある児童・生徒を主な対象とした音楽教育やワークショップで活用するほか、高齢者を対象とした継続的なピアノレッスンを通じたウェルビーイングに関する研究を推進しています。インターネットを介して低遅延でMIDI情報を送受信する技術を応用し、オンラインによる遠隔演奏も実現。2021年には、科学技術イノベーションを用いて社会課題を解決する地域における優れた取り組みを表彰する「STI for SDGs」アワードで、「だれでもピアノ」が文部科学大臣賞を受賞しました。

*ヤマハ(株)は2015年10月より、文部科学省と科学技術振興機構の事業である「革新的イノベーション創出プログラム（COI STREAM）」の拠点の一つである「東京藝術大学COI拠点」に参画（本プログラムは2022年3月で終了）



イベントで「だれでもピアノ」の演奏を楽しむ子どもたち ©平館平

ヤマハ吹奏楽団による活動

1961年に創部し60年を超える歴史をもつヤマハ吹奏楽団は、ヤマハグループの従業員によって構成され、メンバーの多くが楽器製作に携わっていることから「匠のバンド」とも称されています。主な活動として浜松での定期公演やヤマハ野球部の応援演奏、国内外のコンサートやコンクール出場などに加え、演奏活動を通じた地域への貢献を図っています。2022年には、浜松駅で開催された「プロムナードコンサート」に出演したほか、これまでにCDアルバム「ヤマハのオト～奏でる匠のオト～（I～III）」を発売し、売上金の一部は日本赤十字社を通じて寄付をしています。



毎年春に浜松で開催する「ヤマハ吹奏楽団定期演奏会」

ヤマハ野球部による野球教室

1958年に創部したヤマハ野球部は、静岡県を代表する企業チームとして、浜松市をはじめ地域社会からも大きな期待が寄せられています。また、静岡県内での野球教室の開催など、地域におけるスポーツ振興の取り組みに積極的に協力しています。野球教室では少年野球チームへの技術指導のほか、幼稚園での「ティーボール教室」などを行い、現役選手が子どもたちと交流を深めながら野球の楽しさを伝えることで、次世代の健全育成に貢献しています。



子どもたちを指導するヤマハ野球部員

社会課題を見据えた製品・サービスの開発

当社の持つ多彩な技術を生かし、さまざまな社会の課題を解決し、新たな価値を生み出す製品・サービスの開発を進めています。

スマートフォンで利用できる業務用インターホンサービス

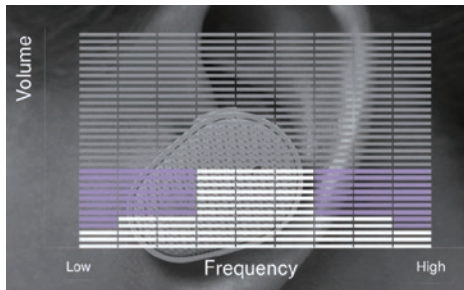
音のユニバーサルデザイン化社会を実現するための技術「SoundUD」を活用した、スマートフォンで利用できる業務用インターホンサービス「スマホでインターホン」を開発しました。音声での対話だけでなく、キーボード入力による文字でのやり取りや自動翻訳機能で多言語化にも対応するなど、外国人や聴覚障がい者の方も利用できます。また、手軽に導入できることから、省人化が進む商業施設の売り場での遠隔対応、無人店舗や無人カウンターからの問い合わせ対応、自治体の支所や出張所の遠隔対応など、さまざまな用途に活用できます。なお、当サービスは、国土交通省が作成した「駅の無人化に伴う安全・円滑な駅利用に関するガイドライン」の事例集でも紹介されています。



キーボード入力機能、自動翻訳機能の利用イメージ(左)とSoundUDトリガーボード

耳への負担を抑える独自技術「リスニングケア」で難聴リスクを低減

WHO(世界保健機関)は、世界の若者(12~35歳)のおよそ半数にあたる11億人に難聴のリスクがあると指摘しました。人は音量を下げると低域と高域が聴こえにくくなることから、つい音量を上げてしまいがちです。ヤマハのイヤホンに搭載された独自技術「リスニングケア」は、音量に応じて音のバランスを最適化し、音量を抑えても自然で聴きやすい音を再現することで、音量を過度に上げることによる耳への負担を軽減することができ、音楽を楽しむことと聴覚保護の両立を実現しています。



リスニングケアのイメージ

多様性の尊重と働きがいのある職場環境づくり

ヤマハグループでは、企業としてのさらなる成長・発展を目指し、ともに働く人々が感性・創造性を十分に発揮できる環境整備に努めています。

DE&Iの推進

多様性とその包摂がヤマハグループの価値創造の源泉であることを、グループ全体の方針および経営における重点テーマとして明確に位置付け、ビジネスにおける意思決定層の多様化の促進と、誰もが力を発揮できる職場の実現の両輪で、体系的な取り組みを進めています。3カ年の「DE&I行動計画」を策定し、無意識バイアス研修の展開や、人材育成プログラムの拡充、LGBTQ+などの性的マイノリティに関する取り組みなど、さまざまな活動を展開しています。

特に女性活躍推進を重要な取り組みの一つと位置付け、女性リーダー(役員層・管理職層)の継続的育成・創出や、仕事と生活の両立支援のための制度整備等、包括的な取り組みを進めています。2021年には女性のエンパワーメント原則(WEPs)にも署名し、トップコミットメントのもと、女性とその可能性を最大限発揮できる環境づくりに取り組んでいます。

ワークライフバランスの推進と従業員エンゲージメントの向上

ヤマハグループは、従業員が心身の健康維持と仕事・プライベート双方の充実を図りながら能力を発揮できるよう、個別の事情に寄り添った柔軟な制度や職場環境の整備を行っています。「テレワーク制度」と「治療と仕事の両立支援制度」の導入に加え、2022年3月期には、遠隔地への赴任や親族の介護に際して通勤圏を拡大する制度を開始しました。

また組織活力の維持・向上のためには、コミュニケーションの質・量の向上を通じ従業員の心理的安全性を高めることが大切であると考え、働きがいと働きやすさに関する意識調査の実施や、傾聴力を高める研修の開催など、互いにリスペクトしあう風通しの良い組織づくりに取り組んでいます。



無意識バイアス研修資料抜粋

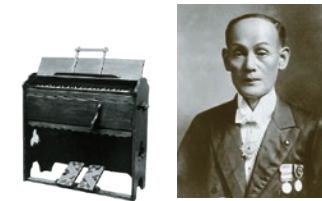


(左) 経済産業省と日本健康会議の顕彰による「健康経営優良法人(ホワイト500)」に認定
(右) 次世代育成支援対策推進法に基づく認定マーク「フラチナくるみん」

ヤマハWebサイト「サステナビリティ」 <https://www.yamaha.com/ja/csr/>

ヤマハの沿革

1887 山葉寅楠が浜松尋常小学校でオルガンを修理、同年にオルガン製作に成功

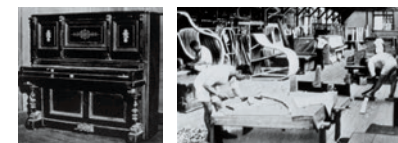


1889 当社の前身である合資会社山葉風琴製造所を設立

1897 日本楽器製造(株)を資本金10万円にて設立



1900 ピアノの製造を開始



1949 東京証券取引所に株式を上場

1954 オルガンの教室を開講(ヤマハ音楽教室の前身)
オーディオの製造を開始(HiFiプレーヤー)
オートバイの製造を開始



1955 オートバイ部門をヤマハ発動機(株)として分離

1958 メキシコに最初の海外法人ヤマハ・デ・メヒコを設立



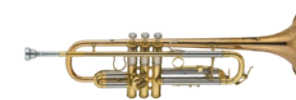
1959 スポーツ用品の製造を開始
電子オルガン(エレクトーン®)の製造を開始

1960 米国に最初の販売子会社ヤマハ・インターナショナル・コーポレーション(現ヤマハ・コーポレーション・オブ・アメリカ)を設立

1962 リゾート事業を開始

1964 リビング用品の製造を開始(FRP製バスタブ)
※2010年リビング事業子会社の株式を譲渡

1965 管楽器の製造を開始



1966 財団法人ヤマハ音楽振興会発足(2011年、一般財団法人に移行)
西ドイツ(当時)に販売子会社ヤマハ・ヨーロッパを設立

1968 日本初の株式時価発行を実施

1971 半導体の生産を開始
※2015年ファブレス化

1974 インドネシアにピアノ製造子会社ヤマハ・インドネシアを設立

1980 ヤマハピアノテクニカルアカデミーを設立



1987 創業100周年を機に、社名を日本楽器製造(株)からヤマハ(株)に変更
ヤマハ英語教室を開始

1989 中国に電子楽器製造・販売子会社天津ヤマハ電子楽器を設立

2002 中国に投資管理会社ヤマハ楽器音響(中国)を設立
ドイツに欧州統括会社ヤマハ・ミュージック・ホールディングス・ヨーロッパ(現ヤマハ・ミュージック・ヨーロッパ)を設立

2005 ドイツの音楽制作用コンピューターソフトウェア開発・販売会社Steinbergを買収

2007 音楽ソフト事業統括会社(株)ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングスを設立

2008 オーストリアのピアノメーカーBösendorferを買収
フランスの業務用スピーカー製造・販売会社Nexoを買収

2010 ヤマハ銀座ビルをリニューアルオープン

ピアノ国内生産拠点を掛川工場へ統合



2012 管楽器国内生産拠点を豊岡工場へ統合
創業125周年

2013 国内の楽器・音響機器卸販売および教室事業を行う(株)ヤマハミュージックジャパンを設立

2014 米国の楽器・音響機器メーカーLine 6(現ヤマハ・ギター・グループ)を買収
米国の通信・音響機器メーカーRevolabs(現ヤマハ・ユニファイド・コミュニケーションズ)を買収

国内における楽器・音響機器の生産事業を製造子会社に承継

2018 研究開発拠点イノベーションセンターを開設



2021 ヤマハ銀座店を「ブランドショップ」としてリニューアルオープン

主要ネットワーク

国内ネットワーク (2022年9月30日現在)

事業内容

- 販売・サービス ● 製造・開発等 ● 音楽ソフト関連
- ヤマハミュージックリテイリング店舗 (全国合計35店)



会社名	所在地
1 北見木材株式会社	北海道紋別郡
2 桜庭木材株式会社	秋田県北秋田市
3 株式会社ヤマハミュージックジャパン	東京都港区
4 株式会社ヤマハミュージックリテイリング	東京都港区
5 ヤマハサウンドシステム株式会社	東京都中央区
6 株式会社ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	東京都豊島区
7 株式会社ヤマハミュージックコミュニケーションズ	東京都豊島区
8 株式会社ヤマハリゾート	静岡県袋井市
9 株式会社ヤマハミュージックマニュファクチャリング	静岡県磐田市
10 ヤマハハイテックデザイン株式会社	静岡県磐田市
11 ヤマハピアノサービス株式会社	静岡県浜松市
12 株式会社ヤマハコーポレートサービス	静岡県浜松市
13 株式会社ヤマハアイワークス*1	静岡県浜松市
14 ヤマハファインテック株式会社	静岡県浜松市

*1 非連結子会社、関連会社



音叉マークに込められた意味

3本の音叉*でヤマハの「技術」「製造」「販売」の3部門の強い協力体制を表すとともに、音叉に象徴される音・音楽を中心に世界(外円)に伸びゆくヤマハのたくましい生命力を表しています。また、音楽の基本である「メロディー」「ハーモニー」「リズム」の調和という意味も込められています。

*音叉:主に鋼鉄で作られたU字型の棒の中央に柄をつけたもので、音の高さを合わせる調律などに使用する道具

企業ミュージアム・ピアノ工場見学のご案内

イノベーションロード
ヤマハ本社事業所 21号館内(浜松市)
<https://www.yamaha.com/ja/about/innovation/>

ピアノ工場見学
ヤマハ掛川工場 ハーモニープラザ(掛川市)
https://www.yamaha.com/ja/about/locations/piano_factory_tour/

※見学は予約制です。予約方法、見学実施日等、詳しくは上記QRコード、URLからご確認ください。



「感動」を世界の人々にお届けする、ヤマハ株式会社とヤマハ発動機株式会社

ヤマハ株式会社(当時の日本楽器製造株式会社)の金属加工技術、メカトロニクス技術から生まれたオートバイ部門が分離独立し、1955年、ヤマハ発動機株式会社が誕生しました。両社の経営は互いに独立していますが、ともに掲げる「お客様とともに感動を創り、こころ豊かな生活を実現し、社会と文化に貢献する」という「ヤマハ」ブランドの使命を実現するため、ヤマハは音・音楽を、ヤマハ発動機は多様なモビリティの提供を中心に、それぞれの事業活動を通じてさらなる成長を目指しています。

海外ネットワーク (2022年9月30日現在)



会社名	所在地
1 Yamaha Corporation of America	アメリカ・カリフォルニア
2 Yamaha Guitar Group, Inc.	アメリカ・カリフォルニア
3 Yamaha Unified Communications, Inc.	アメリカ・マサチューセッツ
4 Yamaha Artist Services, Inc.	アメリカ・ニューヨーク
5 Yamaha Canada Music Ltd.	カナダ・トロント
6 Yamaha de México, S.A. de C.V.	メキシコ・メキシコシティ
7 Yamaha Music Latin America, S.A.	パナマ
8 アルゼンチン支店	アルゼンチン・ブエノスアイレス
9 Yamaha Musical do Brasil Ltda.	ブラジル・サンパウロ
10 Yamaha Music Europe GmbH	ドイツ・レリンゲン
11 フランス支店	フランス・クロワシーポープール
12 イタリア支店	イタリア・ミラノ
13 イベリカ支店	スペイン・マドリッド
14 UK支店	イギリス・ミルトンキーンズ
15 スカンジナビア支店	スウェーデン・ヨーテボリ
16 スイス支店	スイス・チューリッヒ
17 オーストリア支店	オーストリア・ウィーン
18 ベネルクス支店	オランダ・ニューウェーゲン
19 ポーランド支店	ポーランド・ワルシャワ
20 Steinberg Media Technologies GmbH	ドイツ・ハンブルク
21 Nexo S.A.	フランス・ブライー
22 L. Bösendorfer Klavierfabrik GmbH	オーストリア・ウィナー・ノイシュタット
23 台湾山葉音楽股份有限公司	台湾・新北
24 雅馬哈楽器音響(中国)投資有限公司	中国・上海
25 雅馬哈楽器技術培訓(上海)有限公司	中国・上海

会社名	所在地
26 雅馬哈貿易(上海)有限公司	中国・上海
27 雅馬哈電子(蘇州)有限公司	中国・蘇州
28 蕭山雅馬哈楽器有限公司	中国・杭州
29 杭州雅馬哈楽器有限公司	中国・杭州
30 天津雅馬哈電子楽器有限公司	中国・天津
31 深圳雅馬哈楽器音響貿易有限公司*1	中国・深圳
32 Yamaha Music Korea Ltd.	韓国・ソウル
33 Yamaha Music (Asia) Pte. Ltd.	シンガポール
34 Yamaha Music (Malaysia) Sdn. Bhd.	マレーシア・ベタリンジャヤ
35 Yamaha Electronics Manufacturing (M) Sdn. Bhd.	マレーシア・イポー
36 PT. Yamaha Indonesia	インドネシア・東ジャカルタ
37 PT. Yamaha Music Manufacturing Indonesia	インドネシア・東ジャカルタ
38 PT. Yamaha Musik Indonesia (Distributor)	インドネシア・中央ジャカルタ
39 PT. Yamaha Music Manufacturing Asia	インドネシア・プカシ
40 PT. Yamaha Musical Products Asia	インドネシア・プカシ
41 PT. Yamaha Musical Products Indonesia	インドネシア・パスルアン
42 PT. Yamaha Electronics Manufacturing Indonesia	インドネシア・パスルアン
43 Siam Music Yamaha Co., Ltd.*1	タイ・バンコク
44 Yamaha Music Vietnam Company Ltd.	ベトナム・ホーチミン
45 Yamaha Music India Pvt. Ltd.	インド・グルグラム*2
46 Yamaha Music Gulf FZE	UAE・ドバイ
47 Yamaha Music (Russia) LLC.	ロシア・モスクワ
48 Yamaha Music Australia Pty. Ltd.	オーストラリア・メルボルン

*2 製造拠点はインド・チェンナイ

会社情報

会社概要 (2022年3月末現在)

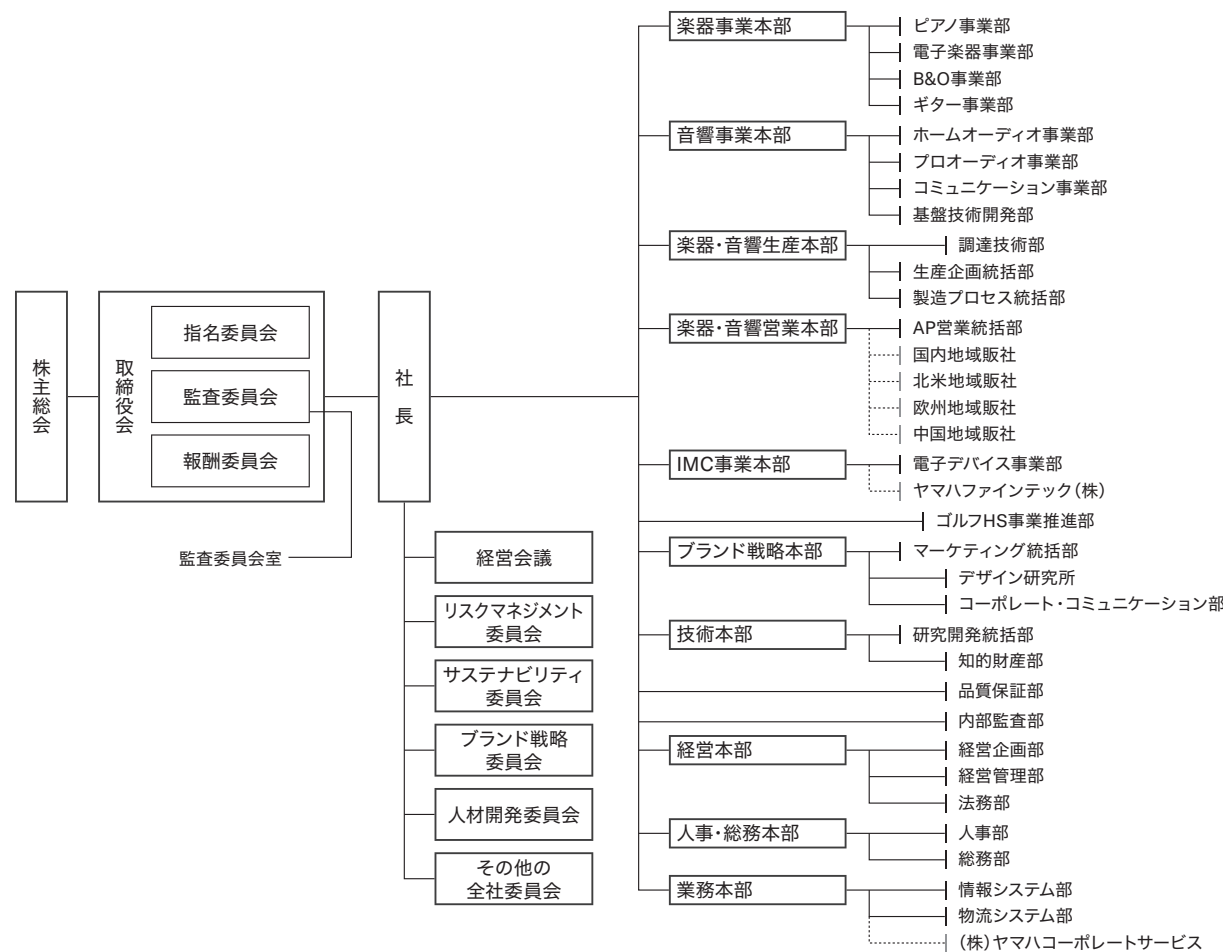
会社名	ヤマハ株式会社
本社	静岡県浜松市中区中沢町10番1号
創業	1887年(明治20年)
設立	1897年(明治30年)10月12日
代表執行役社長	中田 卓也
資本金	285億34百万円
連結売上高	4,081億97百万円
連結従業員数	19,895人 (ほか平均臨時雇用者数8,863人)
地域別従業員数	日本 5,615人、北米 737人、 欧州 1,102人、中国 4,969人、 その他 7,472人
子会社数	59社 (うち連結対象55社)
関連会社数	4社
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場 (証券コード7951)
Webサイト	https://www.yamaha.com/ja/

役員 (2022年9月1日現在)

取締役		
取締役	中田 卓也	指名委員会、報酬委員会
取締役	山畑 聡	
社外取締役	福井 琢	監査委員会
社外取締役	日高 祥博	指名委員会、報酬委員会
社外取締役	藤塚 主夫	監査委員会
社外取締役	ポール・キャンドランド Paul Candland	指名委員会、報酬委員会
社外取締役	篠原 弘道	指名委員会、報酬委員会
社外取締役	吉澤 尚子	監査委員会

執行役		
代表執行役社長	中田 卓也	
常務執行役	川瀬 忍	楽器・音響生産本部長
常務執行役	山畑 聡	経営本部長 兼人事・総務本部長
執行役	藤井 茂樹	IMC事業本部長 兼技術本部長
執行役	山口 静一	楽器・音響営業本部長
執行役	山浦 敦	楽器事業本部長

組織図 (2022年9月1日現在)



ヤマハフィロソフィー

「ヤマハフィロソフィー」は、「企業理念」「顧客体験」、そして「ヤマハクオリティー(品質指針)」「ヤマハウエイ(行動指針)」からなるヤマハグループの理念体系です。

私たちは、常にヤマハフィロソフィーを心のよりどころにしながら、お客様の視点に立ち、期待を超える製品とサービスを生み出すことで、未来に向かって新たな感動と豊かな文化を創りつづけます。

◆ 企業理念

ヤマハグループは何のために存在するのか、何に向かって仕事や経営を行うのかを示しています。

◆ 顧客体験

企業理念をお客様の視点から具体的に示したもので、お客様がヤマハグループの製品・サービスを手にし、使用された時に、心と五感で感じていただくことができる体験を明示したものです。

◆ ヤマハクオリティー (品質指針)

企業理念を具現化するために、製品・サービスに込めたこだわりや、モノづくりに対する基本的な考え方を指針として示しています。

◆ ヤマハウエイ (行動指針)

企業理念を具現化するために、ヤマハグループの全従業員が日々、何を意識し、どのように行動すべきかを指針として示しています。

